場所　東京都八王子市

面積　10.5ha



活動目的

事業活動において車両から排出されるCO_2の吸収源とすること、また、「自然と人とのつながり」を学ぶ環境教育の場として里山を次代へ継承していくとともに、人と自然が共生する里山の再生と生物多様性を保全することを目的とする。

サイト概要

・東京都八王子市にある高尾山の北側に位置する社有林。日本の原風景とも言えるかつての里山の環境を100年かけて再生し、次世代へと継承することを目指し、2007年より活動を開始。

・市民、大学などの教育機関や専門家、NPOなど多くの人たちと協働で「地球温暖化防止に役立つ里山」「人と自然が共生する里山」の再生を「100年」という言葉に象徴される長期的なビジョンのもと推進。

・コナラやヤマザクラといった落葉広葉樹林とスギやヒノキの人工林が周辺に広がる中、落葉広葉樹林と沢沿いを活動エリアとし、190種以上の植物が確認記録されている。

・フクロウやヤマドリ、アオゲラといった希少な鳥類をはじめ、イノシシやニホンザル、アナグマ、タヌキなど里山環境を指標する動物が観測されている。

土地利用の変遷

従来から森林地帯の一部であったが、「高尾100年の森」プロジェクトを開始するため、2007年より管理・整備されている。

サイト周辺の環境

高尾100 年の森は、関東平野から関東山地に差し掛かる縁の位置にあり、ここから西は秩父多摩甲斐国立公園の奥深い山域へとつながる。高尾山から景信山、陣馬山にいたる、都の高尾陣馬自然公園の一部にあたり、流域としては多摩川の支流である浅川流域、御霊谷川が流れている。

アピールポイント

・2016年に環境保全活動や自然体験教室などの取り組みが評価され、八王子市より「体験の機会の場」に認定されている。

・2020年にSEGES（Excellent Stage 3）に認定。社会・環境機能の価値が総合的かつ客観的に評価されている。

・地域の親子を対象に里山体験の機会を提供するプログラムを実施する他、高校生や大学生を対象に生き物や自然、環境保全について体験しながら学べる自然体験プログラムを実施している。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】
コナラやヤマザクラなどの落葉高木と落葉小高木のアブラチャン等が広がっている。未間伐のエリアでは暗い林床性多年草、間伐したエリアでは明るい林床を好む多年草や落葉樹の実生、草原性多年草が共存しており、多様な植生になっている。

【主な植生】
二次林（クヌギ－コナラ群集）
二次草原（ササ群落）

【確認された主な動植物など】
鳥類：サンショウクイ、フクロウ、アオバト、イカル、ホトトギス、アオゲラ、ウグイス、オオルリ、ミソサザイ、トビなど
両生類：アズマヒキガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル
爬虫類：アオダイショウ、ジムグリ、ニホンカナヘビ、ヒガシニホントカゲ
哺乳類：イノシシ、ニホンザル、アライグマ、タヌキ、ニホンジカ、アナグマ、ニホンノウサギ、ハクビシン、ニホンリス、ネズミ類、テン
昆虫類：アサギマダラ、ウスバシロチョウ、オオカマキリ、クロスジフユエダシャク、コクワガタ、トウキョウヒメハンミョウなど
植物：ニリンソウ、センブリ、タマツリスゲ、カントウミヤマカタバミ、カンアオイ、コナラ、ヤマザクラ、オニグルミ、クリ、ホオノキ、アブラチャン、ヤブラン、ヤマホトトギス、オカトラノオなど



写真の説明：センサーカメラで撮影されたフクロウ


写真の説明：ニリンソウ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

親子を対象にした里山体験や、高校生の環境授業、大学生の環境サークル活動（保全活動の実施）の場として文化的サービスを提供している。

【主な植生】

二次林（クヌギ－コナラ群落）
二次草原（ササ群落）

【確認された主な動植物など】

鳥類：サンショウクイ、フクロウ、アオバト、イカル、ホトトギス、アオゲラ、ウグイス、オオルリ、ミソサザイ、トビなど
両生類：アズマヒキガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル
爬虫類：アオダイショウ、ジムグリ、ニホンカナヘビ、ヒガシニホントカゲ
哺乳類：イノシシ、ニホンザル、アライグマ、タヌキ、ニホンジカ、アナグマ、ニホンノウサギ、ハクビシン、ニホンリス、ネズミ類、テン
昆虫類：アサギマダラ、ウスバシロチョウ、オオカマキリ、クロスジフユエダシャク、コクワガタ、トウキョウヒメハンミョウなど
植物：ニリンソウ、センブリ、タマツリスゲ、カントウミヤマカタバミ、カンアオイ、コナラ、ヤマザクラ、オニグルミ、クリ、ホオノキ、アブラチャン、ヤブラン、ヤマホトトギス、オカトラノオなど



写真の説明：森林散策の様子



写真の説明：植樹体験の様子

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

コナラやヤマザクラなどの落葉高木と落葉小高木のアブラチャン等が広がっている。未間伐のエリアでは暗い林床性多年草、間伐したエリアでは明るい林床を好む多年草や落葉樹の実生、草原性多年草が共存しており、多様な植生になっている。また、沢沿いのエリアにはサワガニや魚類、カエル類が生息し、周辺にはニリンソウが見られる。

【確認された希少種】

2014年に大規模調査を実施し、その後も、年4回の生き物調査を毎年実施し、希少種及び生態系の維持を継続的に確認している。環境省レッドリストまたは東京都レッドリスト（南多摩）掲載種として植物1種、魚類2種が確認された。

・植物：カントウミヤマカタバミ（東京都レッドリスト（南多摩）準絶滅危惧）
・魚類：アブラハヤ（東京都レッドリスト（南多摩）準絶滅危惧）
　　カジカ（環境省レッドリスト 及び 東京都レッドリスト（南多摩）準絶滅危惧）



写真の説明：カントウミヤマカタバミ



写真の説明：アブラハヤ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
＜活動目的＞ ・事業活動において車両から排出されるCO2の吸収源とすること、また、「自然と人とのつながり」を学ぶ環境教育の場として里山を次代へ継承していくとともに、人と自然が共生する里山の再生と生物多様性を保全すること。 ・21世紀の里山環境として多様なステークホルダーが里山の手入れに参画し、研修や体験の場、心身の保養の機会として活用すること。 ＜活動内容＞ 申請区域をA～Fの6つのゾーンに分け、上述の価値の保全に貢献するよう、以下の保全を行う。 ・A（エントランス広場・ウッドデッキ広場）：活動に使いやすく整備、斜面は灌木を除伐し広葉樹の植樹・育林、空間を開け草地環境も留意する、落ち葉は除去・活用、景観を重視し見た目にもモデルとなる里山に ・B（せせらぎ広場・やすらぎの丘）：活動に使いやすく整備、沢遊びのできる環境に、灌木の除伐、倒木除去、ニリンソウ群落とフユイチゴを保全、巣箱設置など野鳥観察の場にも ・C（沢沿い）：活動に使いやすく整備、灌木を除伐しニリンソウ群落を拡充、空間を開けヤナギ・ハンノキなどを植樹 ・D（橋の奥の水源と平地のフィールド）：活動に使いやすく整備、ショートカットコースへのアプローチ、動物観察のポイントに、将来的にスギ・ヒノキの切り出し作業拠点に ・E（ショートカットコースなだらかな傾斜地）：活動に使いやすく整備、明るい広葉樹の疎林で動物観察のポイントに、将来的にコナラの更新モデルに ・F（ゲート上の斜面）：活動に使いやすく整備、灌木の除伐、明るい広葉樹の疎林へ、将来的にスギ・ヒノキの切り出し作業拠点に	**【モニタリング対象】** 植物、鳥類、哺乳類、昆虫類、両生類、爬虫類、魚類 **【モニタリング場所】** ゾーンA～F **【モニタリング手法】** 植物：目視観察 動物：目視観察、センサーカメラ **【モニタリングの実施時期及び頻度】** 春・夏・秋・冬の年4回現地調査実施 常時センサーカメラによるモニタリング **【モニタリング実施体制】** 株式会社エコロジーパスの職員による現地調査の実施 常時センサーカメラによるモニタリング